



山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713

300号記念



新年互礼会であいさつする栗山理事長



鏡開きをする

左から 住本商工中金甲府支店長
沖山トラックターミナル(協)理事長
大石甲府法人会専務理事
丹沢甲府商工会議所副会頭



中込中央会常務理事
栗山理事長
田中中央市長
平井産業労働部次長

安全・安心の街づくり前進

栗山
理事長

最適な企業立地を目指す

山梨県流通センター新年互礼会は、平成27年1月8日（木）流通会館第2展示場で開かれた。

冒頭、栗山理事長は「昨年は、全国105ある卸売団地の中で先駆けて、反社会的勢力の侵入を拒み、排除できるような覚書を全組合員賛同の下取り交わし、安全・安心な街づくりへまた一歩前進することができた」と述べた。そして現在直面している問題として組合のインフラを挙げ、道路、街路灯、下水道、さらに組合会館

の老朽化を指摘した。最適な企業立地はどうあるべきか、組合の将来のあり方や姿を討議しながら、慎重かつ迅速に確かな判断をしていきたいとの目標を明らかにした。

次に来賓として、知事代理の平井山梨県産業労働部次長、中央市の田中市長、山梨県中小企業団体中央会の中込常務理事から祝辞をいただいた。

祝辞に続いて栗山理事長、来賓8人による鏡開きが行われ、参加者全員で新年を祝い合った。

安全・安心を更なる高みに

最適な企業立地を求めて

理事長 栗山 直樹



平成27年の年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。『財政の健全化』と『安全・安心な街づくり』を標榜して昨年までに、◎監視カメラの設置 ◎安否確認サービスの導入（災害時の緊急連絡網） ◎ガソリンの備蓄（災害時のBCP対策）を行ってまいりました。

昨年2月の1mを越す大雪には備蓄用ガソリンを初めて放出し、改めて安全・安心を考える機会でもありました。また昨年には全組合員のご理解、ご協力により、「反社会的勢力ではないことに関する表明・確約書」の締結を行いました。これにより当団地は反社会的勢力の進出を阻止し、より一層安全・安心な街づくりが前進することになりました。

一方、築後40年あまりを経過した団地施設・設備

の老朽化への対応が急務となっており、年々修繕費用の増大が財政問題となっております。とりわけ避けられない下水道施設の中央市への移管は、時の経過とともに移転に伴う修繕費用の負担が増える状況であり一日でも早い移管を中央市と協議中であります。また、老朽化が顕著である組合会館は今年度から組合の将来像と共にそのあり方を検討する時期が来ております。

本年も引き続き安全・安心な街づくりを目標に掲げ財務の更なる健全化を図り、私どもの責務である時代に即した団地の新たな価値観・一体感を求め、かつ次世代により良い環境を継承するために、これらの直面する諸問題に取り組む所存であります。本年も何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、関係各位並びに組合員皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

商品の安定供給継続願う

センターは地域経済の担い手

中央市長 田中 久雄



新年明けましておめでとうございます。

協同組合 山梨県流通センター組合員の皆様方におかれましては、希望に満ちた輝かしい、新年の幕開けをお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、平素より栗山理事長をはじめ、組合員の皆様方には、中央市の市政運営全般に多大なるご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

昨年を顧みますと2月、山梨県は観測史上類を見ない大雪に襲われました。農業用施設を中心に甚大な被害が発生するなか、物流の途絶により食料品等が品薄状態になるなど、市民生活に大きな影響がありました。その後も、全国各地でさまざまな自然災害が発生するなど、改めて自然の猛威を実感する年となりました。12月には、2027年の開業を目指すリニア中央新幹線が着工致しました。

中央市は山梨県リニア新駅に隣接しており、路線が市内を東西に横断する計画となっています。今後、山梨県と連携し協力を仰ぎながら、リニア効果を最大限享受できるよう、駅周辺近郊のまちづくりについて検

討して参ります。

一方で、国内景気に目を向けますと、個人消費などに弱さがみられるなか、緩やかな回復基調が続いています。先行きについても、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善傾向が続くなか、各種実行された政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されます。しかし、卸売業を中心とする組合員の皆さまを取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続くことが予想されます。

販売経路の多様化、少子高齢化により消費行動及び消費内容が劇的に変化しております。また、製造業、小売業を含めた卸売機能を巡る競争は一層激しくなっております。現在、政府が提唱する地方創生政策は、疲弊する地方経済の立て直しに向け、中小企業の活性化に直接結びつくものであり、早期具体化を切望するものであります。

困難な状況ではありますが、組合員の皆様が一丸となり、引き続き、地域の流通拠点として地域社会への商品の安定供給を担っていただき、併せて、雇用対策など地域経済にご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

結びに、協同組合 山梨県流通センターの益々のご発展と、組合員の皆様のご活躍をご祈念いたしまして、新年のごあいさつとします。

豪華料理に皆さん満足

社員交流会 企業の垣根越え交流和やかに



第4回社員交流会（坂本健久運営委員長）が、平成26年12月19日（金）、流通会館第2展示場で開かれ、20社から92人が参加した。

食事は(株)富士メディカルサービス、デザートはシキシマ醤油(株)にご協力いただき、ボリューム満点豪華料理に参加者たちは目を輝かせていた。

組合内企業社員有志からなる運営委員会が企画したイベント、「大名刺交換会」「じゃんけんスクラッ

スタッフ・景品協力をいただいた企業

(株)アドヴォネクト	(株)高柳繊維
(株)イイダ	(株)文祥堂オフィスファシリテーズ
甲信商事(株)	(株)マルモ
(株)サンテミリオン	(株)ミツウロコ
(株)サン宝石	(株)山梨中央銀行
CIH(株)	(株)渡辺商店
シキシマ醤油(株)	(株)栗山商店

ご協力ありがとうございました。

チ大会」は企業の垣根を越えて会話するきっかけとなり、大いににぎわった。豪華景品が当たる抽選会では、抽選番号を必死に探す姿も見られ、楽しんでいただくことができた。

流通会館で行う社員交流会も2回目となった。次年度以降はより多くの従業員の方に参加いただけるような、今の形にとらわれないイベントを開催していく。

輝く女性36人からの要望

お弁当屋、

食堂があるといい

「センターニュース300号発行」

記念!!

今後、日本経済が発展していくためには輝く女性の存在が不可欠として、企業における積極的な女性の活用が呼びかけられています。そのため組合広報誌「センターニュース300号発行」を記念し、団地内で働く女性の皆様からご意見・ご要望を募集し、36人から回答をいただきました。

①現在、流通団地について思っていることや望むことなど

◎お店

- ・ガソリンスタンドがあると便利だと思う。
- ・コンビニが近くにほしい。(LAWSON)
- ・団地内においしく低価格なお弁当屋、食堂があると思う。
- ・女性が行きやすくランチができるお店、出前してくれたり、テイクアウトしたりできるお店があればいいと思う。
- ・自分で(セルフで)おかずが取れる食堂(レストラン)が欲しい。そこでグラム売りでお惣菜のお持ち帰りも出来るととても便利。
- ・オレンジの家のパンがおいしい。団地内の社員には10%offの特権もあってうれしい。
- ・カフェがあってもいいかもしれない。

◎交通

- ・路上駐車が多く、当たり前のようになっている。
- ・一般車両も含め、四つ角での一時停止をしない車がまだまだ多いように思う。標識の強化をしてほしい。
- ・トラック運転手同士のあいさつでクラクションをよく鳴らしているが、窓が開いている季節など心臓が止まるくらいびっくりすることがあるので、もう少し控えるか、あいさつの方法を変えるなどしてもらえたらうれしい。
- ・流通団地から環状道路へ出る交差点(jolly pasta辺)の右折の矢印を出してほしい、もしくは少し長めにしてほしい。
- ・会社の近くで交通事故が起きるととても残念に思う。団地内の商業施設の変化により交通量が増え、左右確認せずに出てくる車が増えた。何度も怖い思いをしているので、心穏やかに仕事ができる環境を望む。
- ・道路脇の植栽で見通しの悪い場所があり危険。

◎団地内の環境

- ・街灯の設置をしてほしい。街灯が消えているところがあるので対応してほしい。
- ・雪が降った際に道路の雪かきをしてもらえると助かる。
- ・緑地帯が少ない。
- ・健康管理のために利用できる場所(スポーツジムなどの施設)、または気持ちよくウォーキングできるような公園や歩道がほしい。
- ・ガタガタしているので道路の整備をしてほしい。
- ・夜遅くに帰宅する際、不審者を見かけるため防犯対策を強化してほしい。

◎女性ならではの

- ・託児所があると働きやすいかもしれない。
- ・子どもが病気になったときに、子どもを預かってもらえる「病児保育施設」があると助かる。子どものためには、仕事を休むのが一番なのだが、時には仕事が立て込んでいて休めない…どうしよう!という時もある。流通団地内であれば、送迎も負担無くでき、休憩時に顔を見に行くこともできるので、安心して働くことができる。働くお母さんのための施設を併設してほしい。
- ・可能であれば、女性特有の体調不良時には、会社で考慮していただける制度や呼びかけ(特に代表者の方に)をしてもらえると助かる。

◎流通センターに対するご意見

- ・団地内の他社を知る機会がパートさんにはあまりない。(ボウリング大会やソフトボール大会等ある程度人数がいないと参加できないイベントや研修が多いように思われる)
- ・団地内の会社が多く、なかなか他の会社の方々と交流する機会がないので少し残念。特に女性が参加できるイベントが少ないような気がする。新入社員研修で知り合った同期入社の他の会社の方々は今、どんなふうに働いているのかと考えることがある。またその時の方々とお会いする機会があればよいと思う。
- ・より流通団地を知ってもらうためにも、一般の人でも可能な小売をしてくださる会社の情報や、定期的に催されるイベントを知らせてほしい。
- ・流通団地内の組合員割引商品を増やしてほしい。

お弁当屋、 食堂があるといい

「センターニュース300号発行」

記念!!

- ・センター内企業の通年割引（オイル交換半額・タイヤ販売）やセンター内にアウトレット販売店を起ち上げたらよいと思う。（週1回販売）
- ・センターで毎年行っている乳がん検診等は、会社にながら受診することができ、とても助かっている。今後もこのような活動は続けてほしい。
- ・センターでバザール等の催事は地域活性化にも通じると思う。地域が活性化するような行事等をさらに行ってほしい。
- ・流通センター内の従業員限定販売は消費者としてもお得だし、センター内の会社名は知っているもののどのような商品を扱っているのか知らないこともあるので、会社PRも兼ねてこれからいろんな企業に掲載してほしい。（割引が無くても）ポスターの大きさだと、食堂や廊下など目につくところへ掲示できるので今の大きさがベストかと思う。
- ・センターでバザールなど流通団地内の企業同士が互いを知り合えるようなイベント企画があればよいと思う。
- ・健康診断の受診時間をもう少し早めてほしい。
- ・健康診断を夏に受診できない人もいるため、秋ごろに受診する機会があればよいと思う。
- ・ヴァンフォーレ甲府無料観戦チケットの申し込みをFAXでもできたらよいと思う。

- ・ちょっと有名な人の紹介
- ・企業紹介、社員紹介
- ・ペット自慢
- ・各企業の成功例、ワクワクする事業の紹介
- ・各社の新商品や売れ筋商品、お得な商品やおすすめ商品の紹介。センター企業内で買える物情報。
- ・女性を取り上げる内容を充実させるのはどうか。働く女性の声や女性のための情報を載せると面白いと思う。
- ・流通団地内企業の各イベント、催事などの日時、内容等。
- ・流通団地で行われたイベントの様子
- ・知っているようで知らないセンター内情報。
- ・社長インタビュー（別の職業に就くとしたら何をしたいか、小さい頃の夢、チャレンジしてみたいこと、ストレス発散方法、好きなスイーツ、好きなTV番組や芸能人、お勧めの飲食店など社員も知らないような楽しい質問に答えていただきたい。）

皆様からいただいたご意見・ご要望は、組合運営の参考にさせていただきます。
ご協力ありがとうございました。

◎その他要望

- ・求人情報をいち早く知りたい。
- ・一般のお客様にも分かりやすいセンター内の地図を各所に設置したらどうか。
- ・高齢化に伴う、福祉イベントを計画してほしい。
- ・幼児が喜ぶキャラクターイベントを計画してほしい。
- ・書道教室、筆ペン教室があったらよいと思う。

②センターニュースに掲載してほしい記事や企画、要望等

- ・かいがねのような読み物
- ・サッカーの記事
- ・おいしいお店、流通団地近くの飲食店等の紹介（歓送迎会でいつもセンター近くのお店を利用しているため、知らないお店や歓送迎会メニューなどを知りたい。県外の方が来られた時に連れて行ったらよかったランチのお店など知りたい。）
- ・社屋の周りの清掃の呼びかけ（社屋の周りの雑草やゴミが目立つ会社があるため）



流通センターニュース300号発行に寄せて

流通センターニュース 300号記念 団地の今昔

流通センターニュースの創刊号は、昭和51年12月に発行され、途中、手書きの青焼き印刷などを経て、昭和62年5月で第100号、平成7年10月で第200号を発行、紙面もB5版から、B4版、モノクロから、オールカラーへと変遷し、平成27年2月号を以って第300号発行の運びとなりました。

センターニュースは、創刊号からの期間が38年間におよび、団地の変遷を記録に留め、発信してきました。第300号では、記念特集号として団地の今昔を掲載し、38年間を振り返ることとしました。

昔 昭和52年空撮 団地入居の頃



今 平成24年 団地空撮



昔：昭和56年、集団化事業が完成し、ほとんどの区画が埋まった頃の写真です。リバーサイドの住宅地には空き地も多く、環状道路もありません。
今：平成24年の当団地、隣接のトラックの団地も企業が埋まり、周りには商業施設、住宅も密集しています。

中央駐車場の建設前（流通公園）



夏まつり（流通公園）



現在の中央駐車場



昔：流通公園として、多くのイベント会場として、利用されました。夏まつりも盛大に行われていました。
今：駐車場不足から公園をやむなく壊し、229台余り収容の中央駐車場としました。

くろがねや建設前（大駐車場、共同倉庫、福祉会館）



大運動会（大駐車場建設前）



くろがねや出店後



くろがねや西側入り口



昔：くろがねや出店前は、大駐車場、共同倉庫、田富共同福祉施設、住宅展示場がありました。それ以前はグラウンドとして、運動会も楽しく行われていました。
今：現在、ホームセンターくろがねやが出店し、にぎわっています。

昭和55年頃 新入社員集合



平成25年 新入社員研修



昔：昭和55年頃、新入社員の集合写真です。高卒社員がほとんどで、当時の制服はとてもカラフルです。

今：新入社員研修の1コマです。大卒、専門学校卒社員が多く、制服もリクルートスーツで、統一されています。

昭和55年頃 社員交流会(ダンスパーティー)



平成2年頃 若手社員集合



平成26年 社員交流会



昔：昭和55年頃は、ダンスパーティーを兼ねたクリスマスパーティー（今の社員交流会）が盛んに行われました。平成2年頃の若手社員の集まりも掲載しました。

今：社員交流会が12月に100人以上の参加者で盛大に行われています。新入社員向けのウェルカムパーティーも実施しています。

平成26年 ウェルカムパーティー



第1回センターでバザール



第15回センターでバザール



昔：平成12年11月11日に、「第1回センターでバザール」を開催しました。ビンゴ大会を流通公園で実施している風景です。

今：昨年、開催した「第15回センターでバザール」のビンゴ大会の様子です。開催日は、9月第1土曜日に定着しています。

センターニュース創刊号



センターニュース299号



昔：昭和51年12月1日に創刊号が発刊されました。流通会館起工式の記事が掲載されました。当時の丸茂理事長が挨拶されています。

今：平成26年12月1日に発刊された第299号のセンターニュースです。表紙には、「センターでバザール」の記事が掲載されました。

観光、食事の全てに満足

センターでバザールビンゴ大会景品
台湾旅行感想文

一家で楽しんだ台湾の旅

「台湾の旅」

この度は私どもに台北三日間ペアチケットをプレゼントしていただき誠にありがとうございました。家族で海外へ行けるチャンスというのはめったにあることではございませんので、一人分を追加し三人で行って参りました。

わが家の息子にとっては初めての飛行機、そして初めての海外旅行。全てにおいて新鮮で旅行前からずっとワクワクしていた様子が伺えました。私共には幸いにも台湾に知り合いがおりましたので全ての観光、食事等、案内していただきました。観光は九份、中正記念堂、故宮博物院、龍山寺に行き、途中雨に降られましたが、九份の夜は特に素晴らしいものでした。

食事の方も台湾料理は日本人の口に非常に合うもので常におなかいっぱいになっていた気がいたします。

最後になり

ましたが、流通センターの皆様、(株)トウワの皆様、ご尽力いただきありがとうございました。今後とも「センターでバザール」の繁栄を望みつつ、今回の旅行の報告とさせていただきます。



フォークリフト運転技能向上

6社から10人参加して研修



フォークリフト運転技能講習会が平成26年11月22(土)・23(日)・29(土)・30(日)の4日間、湯村自動車学校で開かれ、6社から10人が参加した。昨年度に続く2度目であったが、受講者が上限の10人に達し、人気の講座となった。

講習終了後には、早速次回の講習会の問い合わせもあり、フォークリフト資格の需要の高さがうかがえた。

フォークリフト運転技能講習会の様子

観光・商業施設意欲的に見学

西ブロック
懇談会

台湾4日間の旅楽しむ

西ブロック懇談会は平成26年12月20日(土)から23日の4日間台湾視察研修会を行った。曇り空が多く生憎の天気ではあったが雨は少なく、台北市を中心に観光施設、商業施設を意欲的に見て回ることができた。

台湾は九州と同程度の面積で、約2,000万人の人口、国土の約3分の2が山あるいは高地であることから高層建築の住宅が多く、家賃も高額との説明を受けた。また、市内の道路にはバイクが多く走っており、約2,000万人の人口に対して1,500万台のバイクが登録されているとのことであった。

訪れた観光地は、精細で色鮮やかな彫刻で埋め尽くされたお寺「祖師廟」、バロック式の赤レンガの建築による商店が並ぶ「三峽老街」、願いごとを書いた天燈上

げを体験した「十份」、奇抜な海岸風景の「野柳風景区」、貴重な宝物が展示されている「故宮博物院」、台湾温泉に入浴した「北東温泉街」等さまざまで、興味深く見ることができた。

また、各観光地には日本人が多く、ガイドさんによると年間150万人の日本人が台湾観光にくるとのこと、ただし、台湾人は年に200万人が日本を観光旅行していると話していた。

最終日は、おいしい上海式点心の昼食と名物のマンゴーアイスクリームを食べ、台湾松山空港から帰途に就いた。



組合員変更事項

組合員名	変更前	変更後
ユーシーシーフーズ(株)甲府支店	支店長 天野一寛	支店長 伊藤 篤

第7回中央市社会福祉大会で山梨県共同募金会会長より感謝状を受けました。

『事務局日誌』 ～11、12月、1月の主な会議等～

- ◆11月 4日 正副理事長会議
- 5日 社員交流会会議
- 6日 生活改善委員会
- 9日 南ブロックコンペ
- 10日 認定職業訓練校監査
- 11日 高野本男相談役（元理事長）お別れの会
- 12日 Y A H O O ! 出店説明会
- 12日 リサイクル・一斉清掃
- 13～14日 関東甲信越卸商業団地連絡協議会
- 18日 社員交流会会議
- 20日 理事会
- 21日 くろがねや東側常永川河川敷草刈
- 21日 北ブロックボウリング大会
- 22～23日 フォークリフト実技講習会
- 25日 L o M A の会パワーディナー
- 29～30日 フォークリフト実技講習会
- ◆12月 3日 正副理事長会議
- 5日 東ブロック懇談会
- 5日 南ブロック懇談会
- 9日 社員交流会運営会議
- 10日 諮問委員会
- 11日 生活改善委員会
- 12日 リサイクル・一斉清掃
- 12日 北ブロック懇談会
- 17日 廃蛍光管一括収集・委託処分
- 18日 社員交流会
- 20～23日 西ブロック海外研修（台湾）
- 25日 くろがねや東側常永川河川敷草刈
- 29日 大掃除 仕事納め
- ◆1月 5日 仕事始め
- 6日 経済団体新年祝賀合同互礼会
- 8日 組合新年互礼会
- 8日 正副理事長会議
- 9日 中小企業団体中央会新春交流会
- 13日 リサイクル・一斉清掃
- 14日 甲府法人会新年賀詞交換会
- 15日 よし原受益3企業協議会
- 19日 商団連新年互礼会
- 21日 L o M A の会新年会
- 22日 職業能力開発協会新年互礼会
- 24～25日 認定訓練 提案営業力研修
- 26日 総務委員会
- 27日 中央市商工会新年互礼会

かいがね

先日、思い立って甲府にある「石橋湛山記念館」を訪れた。

山梨県民なら石橋湛山の名はご存じだろうが、その人の足跡は余り知られていない。彼は、大正から昭和の戦時下の時代に平和主義を主張し、戦争拡大に反対を唱えた言論人であり、戦後1956年（S31）には自民党総裁に選任され、山梨県人として唯一総理大臣になった人である。

生まれは東京だが（幼名、省三）、生後間もなくのころ日蓮宗の僧侶だった父が旧増穂町の昌福寺の住職となるに伴い甲府に転居、その後甲府中学（現甲府一高）を卒業するまで山梨で育った。18歳で得度して湛山と改名、19歳で早稲田大学文学部に進み、大学卒業後、東洋経済新報社に入社、記者としての彼の言論活動がスタートする。

彼が東洋経済新報社で本格的な言論活動を展開したのは所謂「大正デモクラシー」の時代。当時の大隈重信内閣が第一次大戦中に中国に突き付けた対華21カ条要求について民族自決の原則から反対し、朝鮮での三・一独立運動に理解を示すなど列強の植民地主義を批判した。昭和に入り満州事変以降、言論統制が強まる中、大局的・長期的見地から軍部独裁を批判し、戦争拡大に反対、大東亜共栄圏を含む軍事力による広域経済崩壊の必然性を主張した。

太平洋戦争後、1946年請われて吉田内閣の蔵相に就任したが、GHQに対して占領軍駐留費の削減を要求したことが原因となって公職追放となった。その後1956年に自民党大会で総裁に選出され、同年12月、首相就任。全国遊説に当たり国会運営の正常化・綱紀粛正・雇用の増大・福祉国家の建設・世界平和の確立、の五つの誓いを掲げた。しかし、就任間もなく急性肺炎で倒れ、わずか2か月で首相を辞任したのである。

病氣回復後、政界を引退したものの「日中米ソ平和同盟」の提唱など平和主義を論じ、軍備拡張は国力を消耗させるだけで国防を全うできず、結果的には国を滅ぼすとして国連中心の平和外交を主張した。

彼が生涯を通じて一貫して論じたのは平和・民権・自由主義であり、その思想は今の時代の我々にも多くの示唆を提起しており、人類が幾度となく繰り返してきた歴史の過ちを決して忘れてはならない思いがその背景にある。

昨年の夏、広島の実爆被爆者で84歳になる女性が出ていた。「私たちは決して戦争を繰り返してはなりません。あの悲惨な出来事が子供や孫の時代に起こってはなりません。ただ、そう言う切なる私たち一人ひとりの願いが政治の世界には伝わりにくく、いつの間にかずるずると戦争に引き込まれてしまい、そんな怖さを感じます」。

この広島の女性の抱く危惧は果たして杞憂なのか。自分にその疑問を投げかけるとき、「そんな日本になるわけではない」と思いたがる自分があることに我ながら忸怩たる思いがよぎるのだが、そういう私にとって石橋湛山の思想は我々が進むべき道標のように思えるのである。

(M)